

登録コード	HM280100	開講年度	2026				
授業題目	保健・医療・福祉連携特論				担当教員	上村 智子 他	
英文授業名	Cooperation within Healthcare and Welfare				副担当	金井 誠・横川 吉晴・松田 和之・五十嵐 久人・北口 良晃・杉原 伸宏	
単位数	2	講義期間	前期(前半)	曜日・時限	土曜・3時限 土曜・4時限	対象学生	保健学分野共通 / 1年次
講義室	保健学科2 1 2 講義室		授業形態	講義	備考	必修科目	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)		
2026HM保健学分野加, 2025HM保健学分野加, 2024HM保健学分野加, 2023HM保健学分野加							
【専攻】医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力				医学・保健学における臨床課題の解決のために、連携という視点から課題を分析し、克服に向けた提案ができる			
(2)詳細 /Detailed information	一般学習目標G10（期待される学習効果） 人のライフステージに応じた母子保健学領域，成人保健学領域，老年保健学領域，医療生命科学領域における組織間や専門職種間の連携の必要性和具体的な連携モデルの実際，そして，今後の連携のあり方について俯瞰的に理解する。 各領域の連携における実際的な課題とそれを克服するための提案を行うことで，情報収集能力と分析能力と情報発信能力を育成する。 SB0s（行動目標） 1．保健・医療・福祉サービスに関わる様々な組織間や専門職種間で連携が求められる社会的背景について説明できる。 2．母子保健学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる。 3．成人保健学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる。 4．老年保健学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる。 5．医療生命科学領域における連携の課題と連携モデルの実際について説明できる。 特に，感染症防止のための連携の課題と連携モデルの実際について説明できる。 6．ITネットワークシステムの活用法について具体例を示して説明できる。 7．産官学連携の手続きについて説明できる。 8．保健・および医療・福祉サービスの有機的な連携モデルについて意見を述べ，ディスカッションできる。						
(3)授業の概要 /Overview of course	保健・医療・福祉サービスに関わる様々な組織間や専門職種間で連携が求められる社会的背景を理解し，利用者のライフステージに応じたサービス連携の実践例や課題，ITの活用法や産官学連携の手続きを学習する。 また，保健・医療・福祉サービスにおける課題を整理し，解決のための連携モデルを考究し，提案する能力を身につける。 本授業では，担当教員の保健・医療・福祉機関における医療職者としての実務経験や，研究機関における産官学連携の実務経験を活かして講義を行います。 本授業は男女共同参画に関する内容を含んでおります。						
(4)授業計画 /Course plan	第1・2・3回（4月11日） 保健医療福祉領域における連携の必要性 老年保健学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際（上村） 第4・5回（4月18日） 成人保健学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際（西澤 オンデマンド） 第6・7回（4月25日） 母子保健学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際（五十嵐・金井） 第8・9回（5月2日） 医療生命科学領域における連携の必要性・課題と連携モデルの実際（松田 オンデマンド） 第10・11回（5月9日） 保健医療福祉領域の連携を支えるITの概要と活用（北口） 第12・13回（5月16日） 保健医療福祉領域における産官学連携モデル（杉原 ズーム・ライブ） 第14・15回（5月23日） 保健医療福祉領域における連携モデルの提案(まとめ)（上村） * 4/11だけは2～4時限，4/18以降は3・4時限。						
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	課題レポートの発表とグループ討議に基づいて，総括的に成績を評価します。 課題レポートの発表と討議については，論理性70％，発表15％，討議15％で評価します。 レポート発表の評価基準は，下記の通りとします。 (i) 問題の設定が適切であり，(ii) その問題の背景を説明できており，(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており，(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており，(v) その上で自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している（秀）」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。4項目までできていれば「やや上にある（良）」。3項目までできていれば「水準にある(可)」。						

(6)履修上の注意 ・事前事後学習 の内容・テキスト・教材・参考 書/Notes/Prep and review work/Textbook(s)/ Reference work(s)	【事後学習】 授業のまとめを作成して、その内容を反映して、自分の専門領域における連携の課題を発見し、その課題を解決するための連携モデルを考案してください。そして、第14・15回で発表するレポートを作成してください。質問には、メールで対応します。
(7)質問,相談への 対応/Questions and requests for advice	質問・相談は、メールにて随時受け付け、積極的に対応します。 オフィスアワー 上村：随時 保健学科中校舎4階 上村研究室（事前にメールにてご連絡ください） tkamimu@shinshu-u.ac.jp 金井：随時 保健学科中校舎3階 金井研究室（事前にメールにてご連絡ください） makotok@shinshu-u.ac.jp 五十嵐：随時 保健学科中校舎4階 五十嵐研究室（事前にメールにてご連絡ください） higaras@shinshu-u.ac.jp 松田：随時 保健学科中校舎4階 松田研究室（事前にメールにてご連絡ください） kmatsuda@shinshu-u.ac.jp 杉原：事前にメールにてご連絡ください sugihara@shinshu-u.ac.jp 北口：事前にメールにてご連絡ください kitaguti@shinshu-u.ac.jp
(8)授業の形式 /Course format	授業は、配布資料に基づいて進めます。 また、課題レポートを第14・15回の授業で発表していただき、討議を通じて内容をさらに深めます。 課題レポートについては、初回の授業で説明します。 本授業の一部は、遠隔授業で行います。ライブ配信するズームのURLなどは、事前にeALPSに掲載します。 また、オンデマンド授業では、オンデマンド解説動画に基づいた問題をeALPSに提示します。解説動画を視聴後、理解の確認（復習）のために問題に対する回答を求めます。質問には都度メールで対応します。 質問事項に対する解説動画・資料も後日掲示するようにします。